

大分県長期漁況海況予報

〔平成 20(2008)年 1 月～6 月までの海水温・漁模様の見通し〕

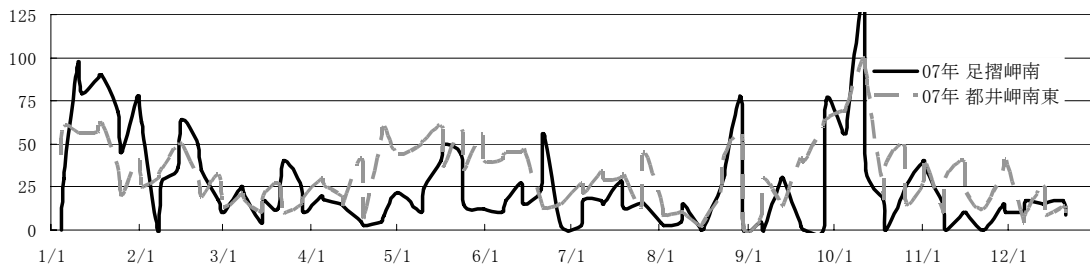


大分県農林水産研究センター水産試験場 879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦 194-6
Phone 0972-32-2155 Fax. 0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 19 年 8～12 月>

■黒潮

8 月、九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は接岸傾向で推移しました。9 月中旬以降、都井岬沖で離岸傾向となり小蛇行が形成されました。10 月上旬～中旬、九州南東沖で「やや離岸」～「かなり離岸」となり小蛇行の規模が拡大しました。10 月中旬～11 月上旬、小蛇行が四国沖を東進しました。11 月下旬以降、九州南東沖の黒潮は接岸傾向で推移しています(図 1)。



足摺岬：接岸 0～25 マイル やや離岸 25～45 マイル 都井岬：接岸 0～30 マイル やや離岸 30～50 マイル

図 1 足摺岬南及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離(南西東海沿岸海況速報より)

■水温

豊後水道の水温(0～75m層)は概ね「平年並み」～「やや高め」で推移しました。8 月は水道全域で「平年並み」でした。9 月は北部と中部で「やや高め」、南部で「平年並み」でした。10 月は北部で「やや高め」、中部と南部で「高め」でした。11 月は北部と南部で「やや高め」、中部で「平年並み」～「やや高め」でした。12 月は北部で「やや高め」、中部で「平年並み」、南部で「平年並み」～「やや高め」でした(表 1)。

伊予灘と別府湾の水温(0～50m層)は、概ね「平年並み」～「高め」で推移しました。伊予灘の 8 月は「平年並み」、9 月は「やや高め」、10 月と 11 月は「高め」、12 月は「平年並み」でした。別府湾の 8 月は「平年並み」、9 月は「平年並み」～「やや高め」、10 月は「高め」～「きわめて高め」、11 月は「高め」、12 月は「やや高め」でした(表 2)。

■塩分

豊後水道の塩分は、概ね「平年並み」～「やや高め」で推移しました。8 月は北部で「平年並み」、中部と南部で「やや高め」でした。9 月と 10 月は北部で「やや高め」、中部と南部で「平年並み」でした。11 月は水道全域で「やや高め」でした。12 月は北部と中部で「やや高め」、南部で「平年並み」～「やや高め」でした(表 3)。

表1 水温の平年偏差評価（豊後水道2007年）

海域	水深	2007年8月	2007年9月	2007年10月	2007年11月	2007年12月
豊後水道	観測日	8/21-22	9/26-27	10/11-12	11/12-13	12/11-12
北部 (大分)	0m	+	+	+	+ -	+
	10m	+ -	+	++	+	+
	20m	+ -	+	+	+	+
	30m	+ -	+	+	+	+
	50m	+	+	+	+	+
	75m	- +	+ -	+	+	+
豊後水道	観測日	8/20-21	9/25-26	10/9,11	11/13,15	12/10-11
中部 (大分)	0m	- +	+	+	+ -	+ -
	10m	- +	+	++	+	+ -
	20m	+ -	+	++	+ -	+ -
	30m	+ -	+ -	++	+ -	+ -
	50m	- +	+ -	+	+	+ -
	75m	- +	+	+ -	+	+
豊後水道	観測日	8/20	9/25	10/9	11/15	12/10
南部 (大分)	0m	+	+	++	+	+
	10m	- +	+	++	+	+
	20m	- +	+ -	++	+	+ -
	30m	- +	+ -	++	+	+ -
	50m	- +	- +	+	+ -	+ -
	75m	- +	+ -	+	- +	+

表2 水温の平年偏差評価（伊予灘・別府湾2007年）

海域	水深	2007年8月	2007年9月	2007年10月	2007年11月	2007年12月
伊予灘西部	観測日	8/8-9	9/20-21	10/2-3	11/6-8	12/5-7
(大分)	0m	- +	+	++	++	+ -
	10m	+ -	+	+++	++	+
	20m	+ -	+	+++	++	+ -
	30m	+ -	+	++	++	+ -
	50m	+ -	+	++	++	+ -
別府湾	観測日	8/7,9	9/19-21	10/1	11/5-6	12/3
0m	0m	- +	+	++	+	+ -
	10m	+ -	+ -	+++	++	+
	20m	+ -	+ -	+++	++	+
	30m	+	+	++	++	+

表3 塩分の平年偏差評価（豊後水道2007年）

海域	水深	2007年8月	2007年9月	2007年10月	2007年11月	2007年12月
豊後水道	観測日	8/21-22	9/26-27	10/11-12	11/12-13	12/11-12
北部 (大分)	0m	+ -	+	+	+	+
	10m	+ -	+	+ -	+	+
	20m	+ -	+	+ -	+	+
	30m	+ -	+	+	+	+
	50m	+ -	+	+	+	+
	75m	+	+	+	+	+
豊後水道	観測日	8/20-21	9/25-26	10/9,11	11/13,15	12/10-11
中部 (大分)	0m	+ -	- +	+ -	+	+
	10m	+	+ -	+ -	+	+
	20m	+	+ -	+ -	+	+
	30m	+ -	+ -	+ -	+	+
	50m	+	+ -	+	+	+
	75m	++	+ -	+	+ -	+
豊後水道	観測日	8/20	9/25	10/9	11/15	12/10
南部 (大分)	0m	+ -	- +	+ -	+	+
	10m	+	- +	+ -	+	+
	20m	+	+ -	+ -	+	+ -
	30m	+	+	+ -	+	+ -
	50m	+	+	+ -	+	+
	75m	+	+ -	+ -	+	+ -

注)+++ : きわめて高め ++ : 高め + : やや高め +- : (高めの) 平年並
 -+ : (低めの) 平年並 - : やや低め -- : 低め --- : きわめて低め

今後の海況の見通し＜平成 20 年 1～6 月＞

■黒潮

日本南岸の黒潮は、非大蛇行流路(1～3 月がC型、4 月以降がN型)で推移するでしょう(図2)。九州南東沖(都井岬～足摺岬沖)の黒潮は、1～4 月は接岸傾向で推移し、5 月は都井岬沖に小蛇行が形成されるため離岸傾向となるでしょう。黒潮の離接岸変動に伴って、小潮時に沿岸域へ一時的に黒潮系の暖水が波及することがあるでしょう。

■沿岸水温

「平年並み」～「高め」で推移するでしょう。

■予測の説明と根拠

- ・黒潮流路予測は平成 19 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2007)に従った。
- ・沿岸水温は気温の影響を強く受けると考えられ、福岡管区気象台の「九州北部地方3か月予報」では、1～3 月の平均気温は「平年並」～「高い」になる確率が高い(80%)としている。
- ・1～4 月の黒潮は、九州南東沖において接岸傾向で推移すると予測されているため、黒潮系暖水が豊後水道内へ波及しやすい状況となり、暖水波及時には一時的に水温が「高め」基調となる可能性が高い。
- ・近年、豊後水道沿岸の表面水温は上昇傾向にある。

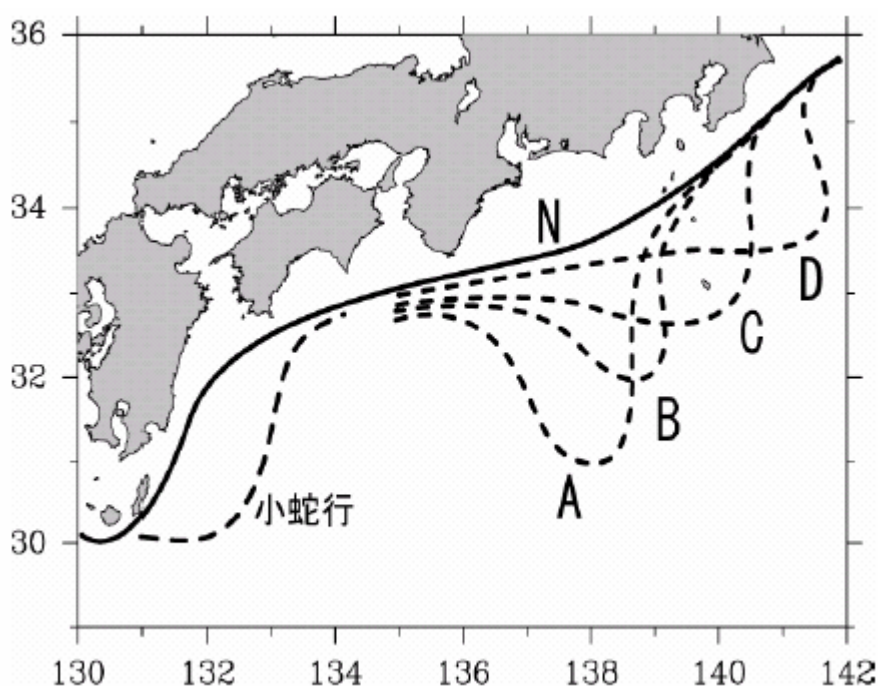


図2 黒潮流型の分類

※上図は平成 19 年度第 2 回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(水産庁プレスリリース資料)より引用

■マイワシ

2007年7～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマイワシの漁獲量は363トンで、前年比105%、1986～2006年までの比(以下「平年比」という)16%と、1980年代の高水準期には及ばないものの、過去5年の水準を上回るまとまった漁獲となりました。

漁獲の主体は、被鱗体長12～16cmの0歳魚(2007年級群)で、7月に佐伯湾内および豊後水道南東部で、11月に豊後水道南部でまとまって漁獲されました。

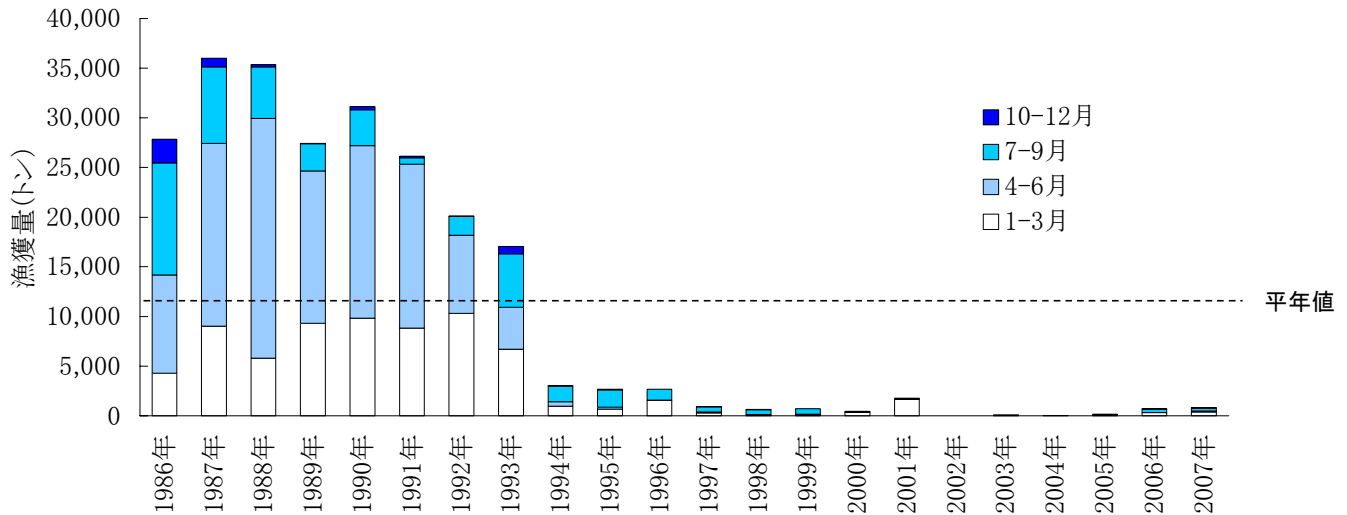


図2 マイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成20年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は依然として低水準ですが、まとまった漁獲のあった前年並みか前年を上回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長19cm(体重80g)前後の1歳魚(2007年級群)が主体で、4～6月から被鱗体長7～12cm(体重20g)前後の0歳魚(2008年級群)が漁獲対象となるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～3月には1歳魚、4～6月には0歳魚が漁獲され、1歳魚の漁獲量が大半を占める傾向にあります。予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2007年級群)の漁況経過をみると、0歳(幼魚)時点の4～11月のまき網漁獲量が前年をやや上回ったことから(前年比139%)、1歳魚(2007年級群)の資源水準は前年1歳魚(2006年級群)並みか、やや高いと考えられます。また、4月以降の0歳魚(2008年級群)の漁獲加入が、前年0歳魚(2007年級群)と同様に好調となるかどうかは、現段階では不明ですが、1980年代のような高水準は望めない状態にあります。

以上のことから判断して、来遊水準は前年並みか前年を上回る程度と考えられます。

■カタクチイワシ(成魚)

2007年7～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるカタクチイワシの漁獲量は3,113トンで、前年比276%、平年比262%と、前年・平年を大きく上回る豊漁となりました。

例年であれば、豊後水道沖合で操業するまき網は、7～10月にゴマサバやマアジ等を主な漁獲対象としますが、今年はそれらの来遊量が低調であったため、カタクチイワシを主体としたイワシ類に漁獲圧が集中し、このような結果に影響したと考えられます。

漁獲の主体は、佐伯湾内で被鱗体長7cm前後の0歳魚(2007年級群)、佐伯湾沖合で被鱗体長11cm以上の1歳魚以上(推定)でした。

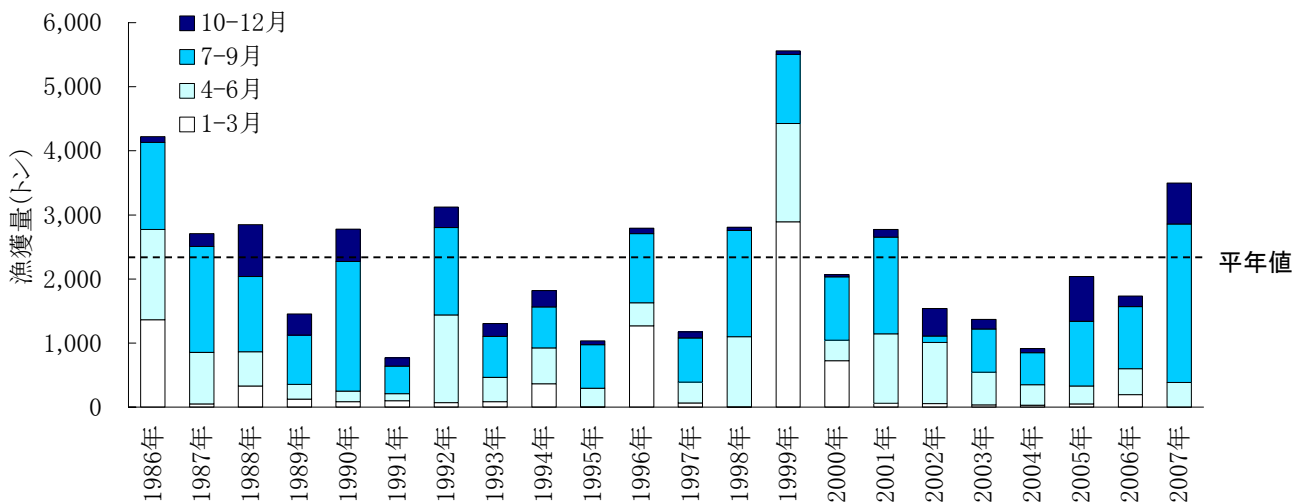


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成20年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は不漁であった前年を上回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長:

1～5月は被鱗体長8～12cm(体重10g)前後の1歳魚(2007年級群)が主体で、6月以降は被鱗体長6cm(体重3g)前後の0歳魚(2008年級群)が1歳魚に混じるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～5月は1歳魚が僅かに漁獲され、6月になると1歳魚に0歳魚が混じり、漁獲量が急増する傾向にあります。

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2007年級群)の漁況経過をみると、シラス漁(稚魚期)は前年並みで(前年比97%)、0歳魚(幼魚)が主体となる10～11月のまき網漁獲量は前年を大きく上回りました(前年比388%)。カタクチイワシに対する漁獲圧の集中が解消された11月以降も前年を上回る漁獲が継続していることから、1歳魚(2007年級群)の資源水準は加入豊度の低かった前年1歳魚(2006年級群)よりも高いと考えられます。

以上のことから判断して、来遊水準は不漁であった前年を上回ると考えられます。

■ウルメイワシ

2007年7～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるウルメイワシの漁獲量は1,139トンで、前年比106%、平年比267%と、好調であった前年並みで平年を上回る漁となりました。漁獲の主体は、0歳魚(2007年級群)でした。漁場・漁獲サイズは7月が佐伯湾で被鱗体長7～9cm、豊後水道南部で12～13cmでした。8～9月は佐伯湾内で12cm前後、佐伯湾沖合および豊後水道南部で12～14cmでした。10～11月は豊後水道南部で16cmでした。

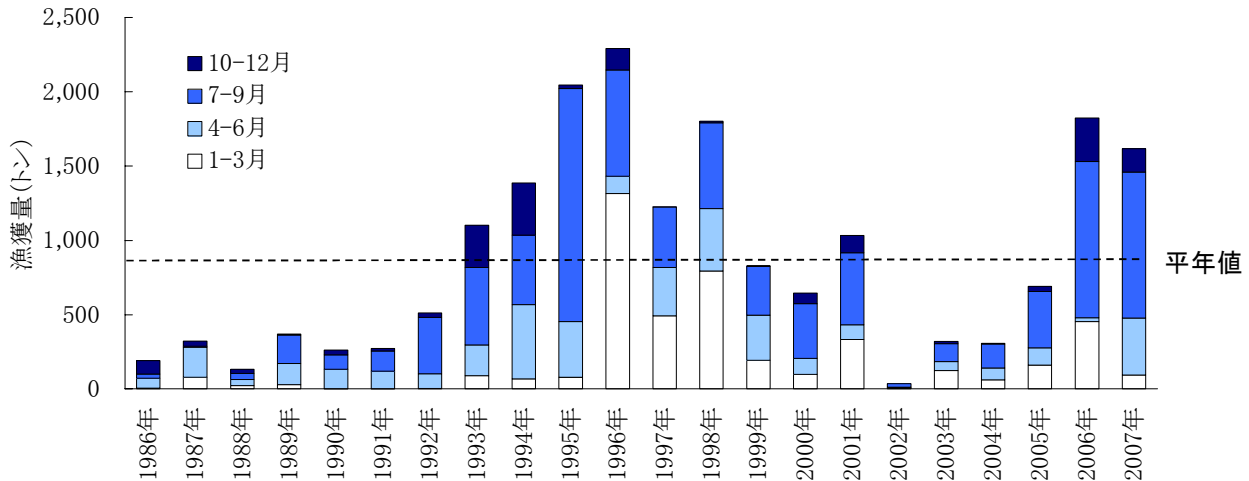


図5 ウルメイワシのまき網漁獲量 (鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成20年1～6月>



来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は好漁となった前年並みか前年を上回るでしょう。

漁獲対象年級群及び体長:

1～3月は被鱗体長20cm(体重90g)前後の1歳魚(2007年級群)が主体で、4～6月は被鱗体長5～12cm(体重5～20g)前後の0歳魚(2008年級群)が漁獲対象となるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～3月に1歳魚が、4～6月に0歳魚が漁獲され、1歳魚の漁獲量が大半を占める傾向にあります。

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2007年級群)の漁況経過をみると、0歳(幼魚)時点の5～11月のまき網漁獲量は前年並み(108%)で、平年を大きく上回った(207%)ことから、1歳魚(2007年級群)の資源水準は高水準であった前年1歳魚(2006年級群)と同程度であると考えられます。また、近隣海域では前年を上回る好調な漁獲が継続しています。

以上のことから判断して、予測期間中の漁獲量の大部分を占める1歳魚の来遊水準は前年並みか前年を上回ると考えられます。

■マアジ

2007年7～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるマアジの漁獲量は976トンで、前年比77%、平年比50%と前年・平年を下回りました。10月に豊後水道南部でまとまった漁獲があった以外は、期間を通して不漁が継続しました。

漁獲の主体は尾叉長10～15cmの0歳魚(2007年級群)で、21～22cm前後の1歳魚は10～11月に佐伯湾および豊後水道中部で僅かに漁獲されたのみでした。

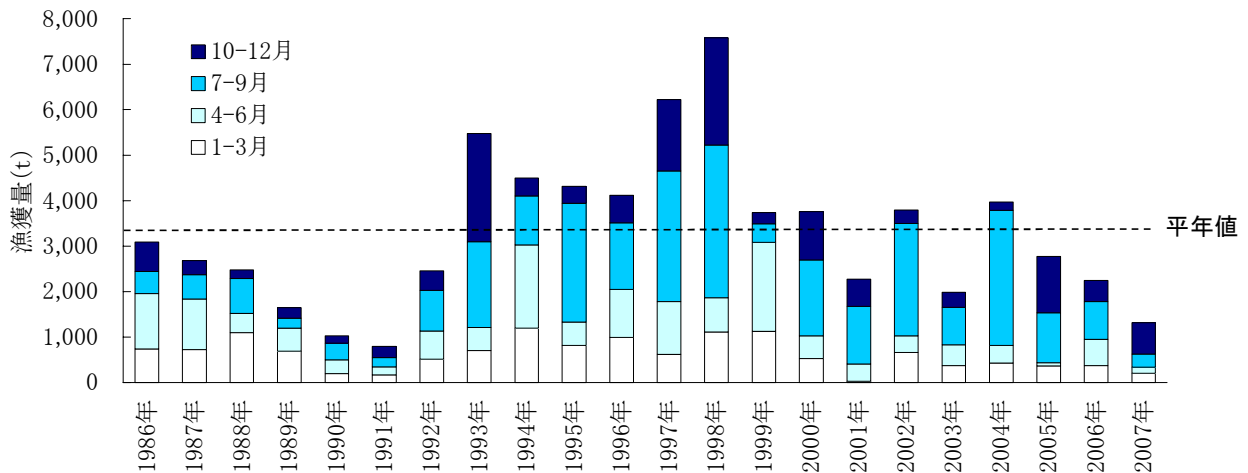


図6 マアジのまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成20年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は前年を下回り、低調な漁となるでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

期間を通して尾叉長15～20cm(体重50～90g)前後の1歳魚(2007年級群)が漁獲の主体となり、2歳魚以上(20cm以上)は散発的に漁獲されるのみでしょう。5月以降に0歳魚(2008年級群)が混じるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～6月は1歳魚が漁獲主体で、2歳魚以上が散発的に漁獲される傾向にあります。

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2007年級群)の漁況経過をみると、0歳(幼魚)時点の7～11月のまき網漁獲量が前年・平年下回ったことから、1歳魚(2007年級群)の資源水準は低水準であった前年1歳魚(2006年級群)よりもさらに低いと考えられます。また、近隣県の漁獲状況も悪く、漁況の大幅な好転は望めません。

以上のことから判断して、来遊水準は前年を下回り低調な漁になると考えられます。

■サバ類

2007年7～11月の漁況経過

豊後水道南部主要3港(鶴見、米水津、蒲江)のまき網によるサバ類の漁獲量はゴマサバ主体に466トンで、前年比24%、平年比13%と期間を通して不漁が継続しました。漁獲の主体は尾叉長17～25cm前後の0歳魚(2007年級群)で、例年6月以降に多獲される1歳魚と2歳魚は漁獲されませんでした。また、卓越年級群である3歳魚(2004年級群)の漁獲もありませんでした。

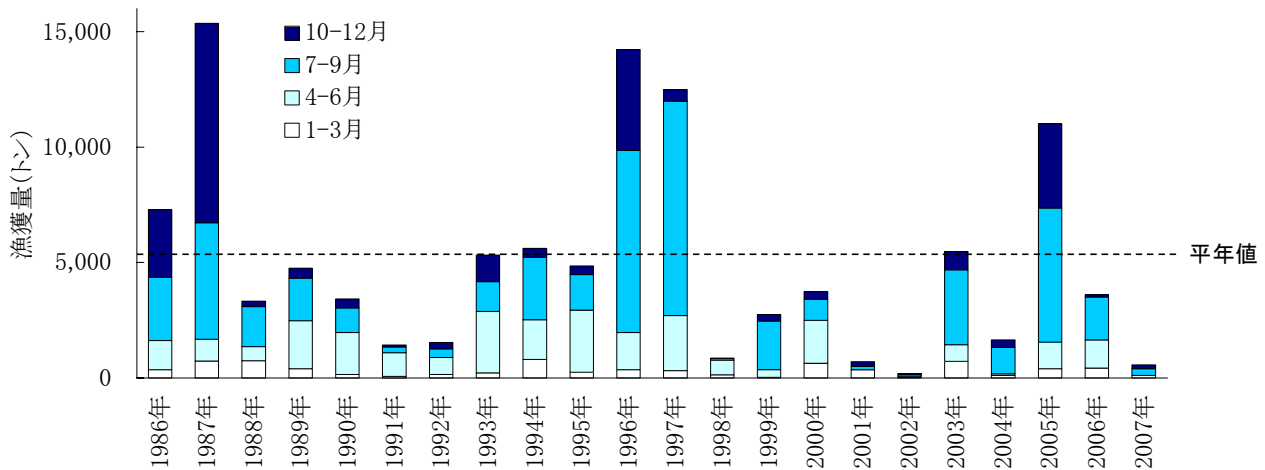


図7 サバ類(マサバ・ゴマサバ)のまき網漁獲量(鶴見・米水津・蒲江支店)

今後の見通し<平成20年1～6月>

来遊水準:

豊後水道南部海域への来遊量は不漁であった前年を上回るでしょう。



漁獲対象年級群及び体長:

尾叉長25～28cm(体重230g)前後のゴマサバ1歳魚(2007年級群)主体に、2歳魚以上が混じるでしょう。5月以降は内湾域で0歳魚(2008年級群)が加わるでしょう。

【説明】

近年の調査結果によれば、1～5月は25～35cm(1歳以上)のゴマサバが僅かに漁獲されるのみで、6月以降に本格的に来遊し漁獲量が急増する傾向にあります。

予測期間中の漁獲主体となる1歳魚(2007年級群)の漁況経過をみると、0歳(幼魚)時点の10～11月のまき網漁獲量が前年を上回ったことから(176%)、1歳魚(2007年級群)の資源水準は低水準であった前年1歳魚(2006年級群)を上回ると考えられます。また、2歳魚(2006年級群)と3歳魚(2005年級群)は現在までほとんど漁獲されておらず、資源水準はかなり低いと考えられ、来遊は見込めません。

以上のことから判断して、予測期間中の来遊量はゴマサバ1歳魚主体に不漁であった前年を上回ると考えられます。

その他

■ 予測の根拠および参考資料

平成19年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報(中央水産研究所及び関係府県:2007)

■ 用語解説

年級群 : ある年生まれの同種の個体群。2007年級群=2007年生まれの個体群。

卓越年級群:漁獲対象資源へ成長するまでに生き残った個体数が他の年に比べて特別に多い年の年級群。

被鱗体長 :体の前端から、尾柄の鱗で覆われている部分の後端までの直線距離。

尾叉長 : 体の前端から、尾びれの湾入部内縁中央(くびれている部分)までの直線距離。

■ 問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県農林水産研究センター水産試験場 栽培資源担当まで

〒879-2602 大分県佐伯市上浦大字津井浦194-6

電話:0972-32-2155

FAX:0972-32-2156